

職員による自己評価

A環境面

安全面を考慮しながら、小さなところでも修繕したり、工夫するようにしている。

B児童への支援内容

一人ひとりへの対応を個別支援計画に基づきながら進めているが、職員で、会議の時だけでなく、日々の打ち合わせで再確認が必要。

C関係機関との連携

区の自立支援協議会、子供部会には積極的に参加してきた。また、養護学校などの参観などにも参加したが複数で参加できると良かった。

D保護者への説明責任・信頼関係

何かあった時は、できるだけ早く丁寧に説明するようにしているが、何でも話しやすい環境を整えていく必要がある。保護者同志の情報交換の場は、もう少し必要。

E非常対応

日頃の避難訓練の成果は、日常の場面で見られた。マニュアルはより深く、確認していくことが、必要

保護者による評価

A環境

建物が古く、バリアフリーが充分とは言えない来所する機会が少ないのでよくわからない。

B児童への支援内容

散歩などの戸外活動が多いのが良い。一人ひとりの状況に応じて対応していて親ではなかなかできない体験も取り入れてくれている。

子供が楽しそうに帰ってくるので安心する。

C事業所からの情報発信

ブログなどで、様子を知ることができているがその日の職員体制や、職員がどんな研修をしているかなどは、よくわからない・

D非常対応

毎月避難訓練をしていて、イレギュラーの場面でも対応できるのではと、期待している。

非常対応のプリントを貰っている。

実際に起きた時の連絡などが少し不安もある。

事業所内での分析

【共通点】

戸外活動を中心としたプログラムについては、生活リズムの重要さに繋がり、生活リズムの安定が先々の自立に向けた生活へつながっていくことを共有していくことが大切ということは・共通理解となっている。

非常時の対応については、お知らせは配布してあるので、具体的なシュミレーションも必要かもしれない。

【相違点】

子供たちの日々の様子を連絡ノートやブログでお知らせしているが、ブログなどもまだ全体に浸透していないので、その点も踏まえて、工夫をしながら、どんなことを発信していくかを、検討していく。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- ・放課後等デイサービスになってから、スタッフも固定していて、個々の子供たちへの対応を共有することはもちろんだが、成長の様子なども確認しあいながら、支援へつなげている。
- ・戸外活動を取り入れる中で、地域の方と接する機会が、日常的にできている。

事業所の改善点

- ・施設、設備面では安全面に考慮しながら補修、修繕をこまめに行なっていく。
- ・災害時のマニュアルは、配布をしたが再度内容を深く検討して、職員、ご利用保護者の方に、わかりやすく具体的にしていく必要がある。
- ・日々の子供たちの様子を知らせる連絡ノートの充実と、全体に浸透していいけるような、工夫をしていく。
- ・保護者同志の情報交換の場の充実。

事業所の改善への取り組み

- ・子ども一人ひとりの支援を、充実していくために職員間での情報を共有し、統一した支援を深めていくように、話し合いの時間を増やし、充実させていく。
- ・ご利用保護者間の情報を共有できる場を単発で終わらずに、継続して続けて行かれる企画を考えて実行していく。
- ・職員の研修（内部、外部）の充実を図り、スタッフが同じ視点で、支援に「取り組んで、いかれるようにしていく。
- ・災害時マニュアル見直し分かりやすくしていく。

2回めということで大きな変化はなかったが。反面、あまり変化していないことにもつながって行く。子供たちに対してのスタッフ同志の共通理解、共通認識を深めていくことが、大切で、それに向けての話し合い、研修を充実させて行きたいと思います。